

第7回 北九州市景観審議会改定検討部会 議事要旨

日 時：令和8年9月3日（木）14:00～16:10

場 所：北九州市役所本庁舎 14階 141会議室

出席者（委員）：

三笠 友洋、井上 龍子、佐久間 治、田中 康子、壹岐尾 恵美 5名
（欠席：中原 知美、福島 規子 2名）

出席者（事務局）：

建築指導課長 村上、景観形成係長 湯浅、主任 田中

議事1 北九州市景観づくりマスタープランの改定について

（委託事業者の紹介、業務の進め方、スケジュールなど）

事務局から内容説明を行った。

＜資料1＞公募型プロポーザルに対する提案書

＜資料2＞令和8年度業務スケジュール

＜資料3＞市民アンケート調査票（案）

【提案書について】

委員 提案内容のうち、理念と目標について抽象的な表現が多い。より具体的に解りやすい表現が必要ではないか。

事務局 了解した。この提案書は、あくまで公募における事業者選定のためのものであり、こちらをベースに改定作業を進めていくが、各委員からの意見やアンケート・ヒアリング調査結果などに応じて、適宜見直していく予定である。そのため、本検討部会において、積極的に意見を挙げて頂きたい。

【アンケート内容について】

事務局 アンケート案を提示。

質問1：現マスタープランに定めているゾーンごとの基本方針や各要素について、良くなったか悪くなったか

質問2：現マスタープランに定めている「5つの景観づくりの目標」について、どの程度大切だと思うか

質問3：市の行う景観づくりの各取組について、大切か大切ではないか

質問4：現景観計画に定めている各「景観重点整備地区」について、良くなったか悪くなったか

【アンケート調査の目的及び進め方について】

委員 このアンケート案はこれまでの振り返り・評価のみしか記載がないため、新たな視点や欠けている視点は拾えず、課題抽出ができない。例えば、取組Aが高評価・取組みBが低評価と集計結果が出たとして、そこから議論につながらない。

そのため、先に専門家や地元関係団体等にヒアリングを行い、景観審議会で議論し、改定や今後の景観づくりの方針や課題、目標設定を整理し、大事な

ものを主張した上で、そこから出てきた仮説を裏付けるためのアンケート調査とすべき。

事務局 了解した。今年度業務のゴールは、2月下旬の景観審議会に諮る素案作成（重点課題と理念・目標案の設定）であり、その根拠としてアンケート・ヒアリング調査及び課題の抽出を行う。今回委員から頂いた意見を基にアンケートの質問を修正し、アンケート調査とヒアリング調査を並行して行い、1月中旬の改定検討部会に調査結果、重点課題、理念目標案のたたき台を提示する。それまでは進捗状況を改定検討部会委員全体に適宜メール等で共有する。

委員 了解（全員）。アンケートの質問については、今回の意見を受けて修正した案を共有・確認して頂きたい。

【アンケートの質問設定について（全般）】

事務局 市としては、色んな方々から詳細な意見・データを集めたいが、質問数や自由記入欄が多いと回答に手間がかかるため、回答数が減ることを懸念している。なお前提として、これまで成果指標としていた「行政評価に係る市民アンケート調査」から、「北九州市の景観が良くなったと思う市民の割合」の項目が削除されたため、代わりの質問が必要である（質問1）。また、前回改定（平成31年度）から5年後に中間報告を取りまとめており、その延長線上となる評価項目も必要である。

委員 回答数を増やすために質問数を少なくしたい意図はわかるが、アンケートに回答してくれるような人は答えてくれるし、回答しない人は最初からしないだろう。しっかりと意向を把握できる質問数や内容にしたほうがよい。

委員 業務で景観規制等を調べる事業者（設計事務所など）と異なり、一般的な市民（建物所有者など）の方々は、このマスタープランや市の景観づくりの取組を知らない人が多い。資料を作っても見るべき人が見ていない、伝わっていない。そのため、質問にマスタープランや取組を知っているかどうかの項目が必要では。

委員 お気に入りの景観や場所などを聞きたいため、予め細分化して設定した具体的な選択肢から選択できるようにし、追加で自由記入欄を設けたら答えやすいのではないかと。

委員 例えば子どもと高齢者で視点が異なるため、年代別に分析できた方がよい。
委員 現在の景観重点整備地区はまちなかのみだが、例えば平尾台のような自然・田園エリアに対する取り組みも必要では。

委員 景観重点整備地区に限らず、各地区・エリアに住んでいる人しかわからない景観資源や魅力があるため、それらを捉える質問がないと、次の新しいことにつながらないのでは。

委員 市は「2050 まちづくりビジョン」や「北九州 2043 次世代まちづくり・投資に向けた戦略」の実現に向けて取り組んでおり、このマスタープランが景観の視点からそういった市の将来計画との間に繋ぐようなビジョンを描けたらよい。

委員 一度アンケート項目を修正したら、近い各区の人に回答してもらって確認

してはどうか。委員内で確認するだけでもだいぶ違いうだろう。

【質問 2 について】

事務局 この質問を、「景観づくりの目標」を見直す契機とし、新たな目標設定につながる設問設定としたい。そのため自由に意見を頂きたい。

委員 各目標のタイトルだけでなく、マスタープラン内に記載している説明文も加えた方がわかりやすい。

委員 現在の目標から設問設定しているのはわかるが、回答項目をもっと細分化するべき。例えば「工場・港湾」は同じ項目となっているが、港湾＝門司港≠工場をイメージする人もいる。「水辺・緑」、「暮らす人・訪れる人」についても同様である。

委員 「5つの景観づくりの目標」を大きな設問として設定し、それぞれさらに細かく設問をぶら下げたら、項目・要素を分けて聞けるのでは。

委員 現在の5つ以外に、「新たに必要な目標（案）」の自由記入欄を設ければ、思いが強い方が記入してくれるのでは。

事務局 了解した。説明文の追加や項目の細分化を検討する。

【質問 4 について】

事務局 今回のマスタープラン・景観計画の改定では、特に既存の景観重点整備地区の見直し（新規追加や廃止・統合、地区ごとのビジョンの策定、範囲の変更、規制の強化・緩和など）を重視している。そのため、質問4を設けた。なお、市内在住者でも生活圏以外の地区は足を運ばないことが予想されるため、「知らない・わからない」という回答項目を設けており、この集計結果も有用なデータになると考えている。

委員 各景観重点整備地区について、通り名などを文字だけで記載してもどの場所のことかイメージがわきづらい。具体的な図示や解説が必要では。

事務局 了解した。現在の景観計画上の地図や写真などを併せて掲載する。

委員 同じ地区でも、回答者がどの部分をイメージするかで評価は変わるため、設問を細分化した方がよいのでは。例えば折尾地区では学園大通り側と折尾エキサイト側を分ける、黒崎地区ではふれあい通りと商店街を分ける、など。

委員 地区別の評価について、選択肢だけでなく自由記入欄を設けるべき。統計的・客観的な意見でなくとも、一つの視点であることは確かなため、その後の議論の材料となる。

委員 自由記入欄を設け、新たに追加する地区（案）を聞いた方が良い。ただし、提案が多い場合にどう絞るかという課題はある。

事務局 現在、マスタープラン上の景観形成拠点がそのまま景観計画上の景観重点整備地区になっているが、必ずしもイコールでなくてもよい。例えば、まちなか以外の自然・田園地域など、景観形成拠点は幅広く増やしていき、その中でより規制が必要となるエリアだけを景観重点整備地区に設定する方法もある。住民や地元関係者によっては、啓発だけ求める場合や規制強化を求める場合などがあり得るため、エリアによって対応を変えることになる。

【配布方法・アンケート対象について】

- 事務局 アンケートの調査方法について、WEB 回答のみとするか、WEB 回答と郵送・紙回答を並行すべきか、ご意見伺いたい。なお、WEB 回答のみの方が次回の中間報告時などモニタリングを行いやすいが、紙回答の方が特に高齢者層が答えやすくなると考えている。
- 委員 WEB 回答のみでよい。これから景観づくりに関わっていく次世代の意見をより多く聞くべき。
- 委員 高齢者に対しては、広報の仕方を工夫し、家族や知人に協力してもらい一緒に回答してもらうなど、協力を呼びかければよい。
- 事務局 了解した。では WEB 回答のみとする。中間集計時点で回答者の属性（年齢等）の偏りが大きすぎる場合は、改めて対応を相談する。
- 委員 次世代として、特に 10 代（中学生・高校生）の意見を聞くべきでは。
- 事務局 回答者の属性として、「18 歳以下」の欄を設ける。
- 委員 10 代や高齢者層などについては、学校や高齢者施設に別途周知するなど、世代を絞って広報してもよいのでは。
- 事務局 関係部署と協議する。
- 委員 WEB 回答の場合、アンケートが市民以外にも届くと思うが、集計上の扱いはどうなるのか。
- 事務局 広報に使用する市の公式 SNS には市外の方も登録している。そのため、回答者属性欄に市外居住者の項目を設けている。
- 委員 市外の観光客などを対象にする場合、アンケートの質問項目が変わってこないか。
- 事務局 本アンケートのメインターゲットは、あくまで市民及び市内通学・通勤者であるため、観光アンケートのようなものは想定していない。

【ヒアリングについて】

- 事務局 地域団体へのヒアリング先について、事務局の素案として、現在景観業務で関わっている「門司港まちなみづくり協議会」（門司港地区）・「KEYAKI TERRACE YAHATA」（国際通り地区）を想定している。その他の地区については、当該エリアのまちづくりを所管する市の関係部署と協議の上、ヒアリング先を調整したいと考えている。他に意見を聞いた方が良い団体があればご意見頂きたい。
- 委員 それでよい。ヒアリング候補先のリスト（案）を作成後、委員に送付し意見を伺い、反映して頂きたい。
- 委員 専門家へのヒアリング先については、北九州市景観審議会の各委員が景観に関する各分野の専門性を持っているため、まずは各委員を主なヒアリング先として頂きたい。
- 事務局 了解した。